共に支えられ生きていく

住民が主体的に地域課題を把握して解決を試みる仕組みづくりに向けて

令和2年度

新あさひみらい塾 報告書

横浜市では、地域課題が多様化するなか、平成26年度より、
協働の「地域づくり大学校」事業に取り組んでいます。
旭区ではこれまで、受講生が見学会など様々な体験を通じて、
地域で活動するきっかけをつかむことを目指して「あさひみらい塾」を開催してきました。
平成30年度からは、身近な困りごとや生活課題によりそい、
支え合いながら、住み慣れた地域で自分らしく暮らしていくことのできる
地域共生社会の実現に向け、旭区役所と旭区社会福祉協議会の協働による
「新あさひみらい塾」を開催してきました。

主催 旭区区政推進課 / 社会福祉法人横浜市旭区社会福祉協議会

新あさひみらい塾 3年間のあゆみ

「実践者からの学び」を重視してきた新あさひみらい塾では、テーマに沿った先駆的な活動を事例として取り上げました。

受講生は、視察をすることで活動の工夫を発見し、実践者との対話を通して課題との向き合い方を学び、さらには受講生間での気づきや疑問の共有・検討をし切磋琢磨してきました。卒業生のなかには、すでにサロンを開いて場づくりを始めたり、防災活動から要援護者の見守りにつなげたりと、地域の仲間とともに自らが実践者となって地域づくりに取り組んでいる人もいます。

第1期（平成30年度）
多様なサロンのあり方と自然な見守り
地域で解決するための住民と専門職の連携

受講者の声

- 地域の困りごと全般を解決していきたい。見守り体制を強化していくことに新あさひみらい塾は非常に有益だった。
- 視察先のサロンは素晴らしい活動だが自分の地区では難しい。自分の地区に合ったサロンの立ち上げに取り組みたい。
- 町内会・自治会活動のひとつである社会福祉について学んだ。町内会・自治会活動とはリンクしているので振り返ってみたい。

第2期（令和元年度）
孤立しがちな人を見つけ出しみんなで見守り
地域防災活動と日ごろの見守りの一体化

受講者の声

- テーマを絞った「講義・グループワーク・視察」の構成でとても効率よく、得ることの多い研修だった。また参加したい。
- つながりのある地域づくりが必須と感じた。
- この勉強会に参加した事で自分の住んでいる自治会や地区の強み、弱みが見えてきた。

第3期（令和2年度）
災害時要援護者支援につなげる平常時の見守り
災害後のまちづくり

受講者の声

- 毎回思いもかけないキーワードに出会えるので大変勉強になった。
- 自治会と社協の関係、関連する法令があることなど、初めて知ったことがたくさんあった。
- 連合の誘いで参加しましたが、地区社協とも顔なじみになり、ここだけで終わるのではなく、これからの地区活動の実践でこのつながりを活かしたい。

渋谷氏からの応援メッセージ

コロナ禍は人びとの生活にさまざまな制限を生じさせています。みなさんもいろいろお困りのことと思います。また、人びとを支える地域の福祉活動も、感染予防のために休止をせざるを得なくなったり、活動を続けるためのさまざまな工夫をしたり、新たな活動を編み出したりと、いろいろ苦労しています。

これは、困ったことではありますが、つながりとは何なのかということをあらためて考える機会になったとも言えるのではないでしょうか。この経験が今後の活動発展の糧になるような気がします。コロナ感染下で塾に参加していろいろ話をしたよな、と思い出していただけるとうれしいです。

地域共生社会を目指して 共に支えられ生きていく 横浜市旭区社会福祉協議会

旭区区政推進課　TEL.045-954-6028 / 旭区社会福祉協議会　TEL.045-392-1123　令和3年3月
（編集・デザイン:スパイスアップ編集部）

先駆的な自主防災活動や被災地のコミュニティ形成について実践者から学び、自分たちの地域課題に合った活動を探求しました。

第1講
2020年11月11日（水）
・開校式
・講演：地域共生社会における日ごろの見守り活動と防災
・グループに分かれて活動紹介

第2講
2020年12月8日（火）
・実践者から学ぶ①
事例報告：羽沢南町内会（神奈川区）
ゲストを囲んでフリートーク

第3講
2021年1月15日（金）
※オンライン開催（サテライト会場設置）
・実践者から学ぶ②
講演：災害後のまちづくり～地域のつながりの再構築
（釜石市社会福祉協議会）

第4講
2021年2月15日（月）
・あさひみらいプラン作成
個人ワーク・グループワーク
・閉校式

第1講 「地域で住民の役割の重要性が注目されている」

地域共生社会における日ごろの見守り活動と防災

制度では対応しきれない課題

潜在化する社会的孤立

専門職だけでは難しい
住民でなければできないことがある

社会福祉法人中央共同募金会
常務理事 渋谷篤男氏

社会的孤立が増えている一方、「見守られる」ことを「見張られる」と感じる人もいます。しかし災害時の避難支援に対しては「助けて欲しい」というメッセージを得やすいので、災害時の避難支援と平常時の見守り活動をリンクすることで支援につなげられます。

渋谷氏の講演の後のグループワークでは、互いに自分のまちの見守り活動と防災の現状を話し合い、他地区の取組を学び課題を共有しました。

受講後アンケートより

- 空き家が増えている。
75歳以上のひとり暮らしはほとんどが女性。
「話し相手」を欲しがっている。
- 自治会で防災訓練を実施し、
組織はできているが、実際の動きがとれない。

第3講 「日ごろの関係づくりが災害時、ひいてはその後の復旧・復興につながる」

災害後のまちづくり～地域のつながりの再構築

地域福祉課 生活ご安心センター
課長 菊池 亮氏

東日本大震災の甚大な被害を受けた釜石市では、半年弱の避難所生活の後、仮設住宅において釜石市社会福祉協議会が「地域話し語りの日」を100カ所以上で開催し、分断された関係性の修復に取り組んだ他、住民間の関係性や孤立を可視化するための「住民支え合いマップ」を作成。避難所での支援活動を通して発掘したキーパーソンを中心に見守り活動を展開しました。その後、災害公営住宅では新たなコミュニティ形成のために交流会を開催して自治会づくりへの合意形成を行い、また再建住宅地区では「住民支え合いマップ」※を作成して人口減少した地区の支え合いを構築しました。

菊池氏の講演後のパネルディスカッションでは、"地域全体で主体形成、合意形成を行う"視点の重要性や、地域に出向く"アウトリーチ"の姿勢、また災害以前の日ごろの見守り活動の重要性などについて意見交換が行われました。

※「住民支え合いマップ」
支え合いの必要な方と関わりのある人を地図上に落とし込んで地域のつながりを再確認し、地域の支え合い活動に活かします。

受講後アンケートより

- 専門職だけに頼ることなく、住民とも日ごろのコミュニティから相談できる関係性を高めたい。
- 地域の人々のつながりや多くのリーダーさんの努力で災害を乗り越えたのだと分かった。

第2講 「自分たちの町は自分たちで守る」

アンケートをベースにした災害時要援護者支援

羽沢南町内会（横浜市神奈川区）

羽沢南町内会では、災害発生直後の被害の防止・軽減を目的に「自主防災隊」を設置しています。組織を町内会と連動させることで会員にわかりやすくし、かつ災害時・平常時の役割を全自治会員に設定。これらを運営マニュアルで共有しています。また、要援護者の実態を把握するためのアンケートはがきを全戸配布し、災害時に支援が必要な人・支援できる人を把握。この結果をもとに「災害支え合いマップ」をつくるとともに、市の要援護者名簿に載っていないが支援が必要な人の要援護者カードをつくり、平常時の見守り体制を整備しています。また各種イベントを通した住民同士のふれあい、および町内会役員に負担が集中しない運営など、持続可能な要援護者支援に取り組んでいます。

会長・和田勝己氏

副会長・石幡邦雄氏

副会長・相田忍氏

受講後アンケートより

- 町内会役員と民生委員、ケアプラザが一体となって支え合い要援護協力者を選び、要援護者を支えているという話が参考になった。
- アンケート調査の方法、自主防衛隊の組織づくりが非常に参考になった。

第4講 「自分の地区で実践してみたいこと」

あさひみらいプラン作成

最終回は「みらいプラン」を作成する個人ワークからスタート。自分の地区のできている点や足りない点、「こうなったらいい」と思うことなどを挙げた後、自らが実践してみたいことを書き記しました。続くグループワークでは、それぞれのみらいプランを発表。受講前に考えていた地域課題の解決に向けて、第1講から第3講までの学びを通して多くのヒントを得たようです。

第4講の後の閉校式では旭区長から修了証を授与。各地区での実践が始まります。

受講後アンケートより

- こちらから困っている人を助ける活動に変えていきたい。
- 連絡のとれない人を一人でも減らす。
- 「ボランティアをしてみたい」「してもいいよ」という人を定期的に発掘する仕組みをつくりたい。